

Liposome Bupivacaine for Pain Control after Labiaplasty

福澤 見菜子¹ 高田 章好²

Minako Fukuzawa¹

Akiyoshi Takada²

湘南美容クリニック 松戸院¹ 大阪大学医学部 形成外科²

【目的】

小陰唇縮小術は1984年にHodgkinsonらにより報告され、2016年のISAPS Global Statisticsによると症例数は年間45%増加し世界的に最も成長率の高い美容外科手術である。我が国でも同様の傾向がみられ、演者も年間400症例以上を執刀している。小陰唇縮小術は陰部の圧迫感等日常生活における不便さが受診動機となる事も多く、手術で高率に改善されるため術後満足度が高いのが特徴である。一方で他部位よりも術後疼痛を強く訴える患者が多いと感じている。今回われわれは小陰唇縮小術において局所麻酔薬持続徐放性リポソーム製剤 (Exparel[®] n、米国Pacira社) を使用し術後疼痛管理に有効な結果を得たので報告する。

【方法】

2017年5月から10月までの期間に当施設で両側小陰唇縮小術を行った患者のうち希望した30名に対し手術終了時にExparel[®] nと1%XylEを片側ずつ局所注入した。手術手技によるバイアスを避けるため手術は全例演者(医師歴12年、形成外科専門医)が執刀しNumerical Rating Scale (NRS) を用いた術後1週間までの痛みの強さと鎮痛剤内服回数を調査した。

【結果】

術直後から術後半年までに合併症や手術結果に対する不満は一例もなかった。Exparel[®] n使用側のNRSは術当日82%、1POD 69%、2POD 66%、3POD 56%、7POD 57% 軽減した。鎮痛剤内服回数の合計は平均4.0 ± 4.1回で、平均以上内服した痛みを感じやすい群ではExparel[®] nを使用するとより鎮痛効果を得やすいことがわかった。またこの効果は術後早期ほど顕著であった。

【考察】

Exparel[®] nは小陰唇縮小術の術後疼痛対策として有効であると考えられた。しかし鎮痛効果により血腫等の周術期合併症を見逃す可能性があるため、執刀医には着実な手術操作が求められると思われた。